

認知症ケアについて学ぼう

～あなたの認知症ケア アップデートできていますか？～

研修会報告

この研修会は、認知症ケアについての基礎知識に加え、最新の認知症ケアの方法や視点について学び、さらなる対応力の向上、効果的な支援方法の習得を目的として開催しました。多職種86名(会場11名、オンライン75名)の方がご参加くださいました。

開催日:2026年7月24日(金)
14時～15時30分
姫路市医師会館 中ホール

講 師 たかはし まな み
高橋 学美 氏

姫路中央病院
患者サポートセンター
副看護師長
認知症看護認定看護師



《 講義のポイント 》

＜ 認知機能低下と記憶 ＞

- 認知機能が低下すると、影響を受けた脳の部位により知覚-運動、言語、学習と記憶、社会的認知、実行機能、複雑性注意能力が低下する
- 記憶：受け取った情報のうち必要な情報を選別し残す
一時的に覚える短期記憶と、いったん保存されると半永久的に残る長期記憶がある

＜ 症状への対応 ＞

- エピソード記憶の保存は難しくなるが、感情（怖い、悲しい、楽しい、嬉しいなど）は残りやすいため、声掛けや支援の際に意識する
→**良い感情を残すように支援する、褒めることは有効**
- 記憶障害：本人にとっては「事実」のため否定しない、メモ・カレンダー・ラベルの活用、あえて食事後の食器を置いておくなど
- 見当識障害：会話のなかに時間や日付や季節を感じられる内容を意識して盛り込む、否定をせず本人の話を聞く
- 遂行機能障害：苦手な部分を確認してできない部分を補う
- ものとり妄想：否定も肯定もせず落ち着いて話を聞き、見つかった場合は必ず肯定的な声掛けをする、スマートタグ等の紹介
- 帰宅願望：背景に環境変化、居心地の悪さ、不安があるなど
一緒に散歩、話題を変える、話を聞く、新環境に慣れるのを待つ

＜ その他 ＞

- 認知機能の低下を示す疾患や誘発しやすい薬剤がある
- 最近の治療：抗アミロイドβ抗体薬（点滴）
- 身体拘束：ストレスがかかり睡眠障害・認知症が進行
- 意思決定支援：早期から家族や本人に情報提供し意向を確認、本人の意思確認ができない場合は家族を含め、医療・ケアチームの中で慎重な判断を行う

🍀 参加者の皆さまからの声をご紹介します 🍀 (アンケートより)

- ・ 具体例を挙げてお話いただいたため、イメージしながら研修を受けることができた。
- ・ 今回の研修で学んだ方法を活用し、ご家族への支援をしたいと思います。
- ・ 「良い感情は残る」を活用し、少しずつ良い感情体験を積み重ね出来るようにしたい。
- ・ それぞれの特性に合った対応を心掛けていたが、気付けば同じような対応をしている気がした。今回の研修でアップデートできた。
- ・ 事例や対応の例を学べ、今後の相談に役立てることができる。
- ・ ぜひ、現場でも取り入れたいと感じた。

★ 今後も医療・介護専門職を対象とした様々な研修会を企画しております！お楽しみに ★